

2025 年 4 月 15 日

経済地理学会会長
松原 宏 殿

経済地理学会著作賞選考委員会
委員長 伊藤 健司

第 12 回経済地理学会著作賞 受賞候補者の推薦

経済地理学会著作賞選考委員会は、経済地理学会著作賞内規にもとづいて慎重な審査をおこなった結果、以下の通り候補者を評議会に推薦することを決定いたしましたので、ここにご通知申し上げます。

選考結果

候補者名：上村博昭

候補著作：『食による地域経済の活性化 食品加工事業の育成と大都市への販売戦略』
(古今書院, 2023 年, 191 ページ)

推薦理由：

本書は、縁辺地域における地域経済活性化について、食品加工事業に焦点を当てて分析し意義と課題を示したものである。統計データを効果的に活用するとともに、丹念なフィールドワークを通じてデータが収集され、それらをもとに定量的・定性的な分析がなされており精緻な実証的研究となっている。

第Ⅰ章では、縁辺地域の産業振興についての議論を整理して食品加工事業に注目することの意味が示される。第Ⅱ章では、食品加工事業に関連する既存研究や全国的動向をふまえて、事業者、自治体、顧客という 3 つの主体の関係性に注目して分析していく枠組みが提示される。第Ⅲ章から第Ⅴ章の事例分析では、それぞれ、事業者育成方式での産業振興、第三セクター方式での食品加工事業、市場となる大都市での自治体アンテナショップによる販路拡大について分析される。3 つの事例の分析と従来の研究の知見をふまえて第Ⅵ章と第Ⅶ章での考察とまとめに進む。

本書では、事業者、自治体、顧客という 3 つの主体によるそれぞれの論理に加えて、それらの間の関係に着目して分析し、縁辺地域における産業振興の意義と課題について考察をおこなっている。単純な成功事例の検討ではなく、縁辺地域ゆえの制約を把握して困難な状況を克服するための対応についても言及されている。さらに縁辺地域であることの制約に起因する自治体と事業者の方針のずれなどを指摘し、方向性の違いが生じる要因を考察して政策提言を試みていることなども有意義な視座を提供するものとなっている。

なお、縁辺地域の中でも多様な状況が考えられるため一層の事例研究の積み重ね、またいわゆるコロナ禍以降の社会の変化も続いているため近年の動向もふまえての検討など、今後のさらなる研究の進展にも期待したい。

以上より、本書は経済地理学研究に大きく貢献するものであり、将来の発展が期待される若手研究者の奨励に資するための経済地理学会賞の受賞対象として適当であると考え、上村博昭会員を第 12 回経済地理学会著作賞の受賞者として推薦する。

経済地理学会著作賞選考委員会：伊藤健司（委員長）、浅妻 裕、土屋 純、戸田順一郎、野澤一博